

利尻島西部の倉庫にて発見された外来カマキリ

佐藤雅彦

〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 136 利尻町立博物館

Finding of an Introduced Mantid Species, *Hierodula* sp., in a Warehouse from Western Rishiri Island

Masahiko SATO

Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

Abstract. Twenty or more mantid nymphs were found in a warehouse owned by an electric equipment company at Kutsugata, western Rishiri Island on 15 July. It seems that eggs or nymphs were introduced together with materials shipping from outside this island. Only one adult female emerged on 21 September. The adult mantis closely resembles an introduced species reported as known as “Mune-aka-harabiro-kamakiri (*Hierodula* sp.)” by Mano & Uno (2014), Karube & Kaga (2019), and others. This is the first report of mantis from Rishiri Island.

カマキリ類の北海道における記録は、主に南西部を中心に知られてきたが（久万田，1990；前田，2000；小川，2013；坂田，2013），これまで利尻島においてカマキリ類が発見されたという記録は、筆者の知る限りなかった。2021年の夏、利尻島西部の利尻町杵形の倉庫から複数のカマキリ類の幼虫が発見されたので、以下に報告する。報告にあたり、発見のご一報をいただいた柴田栄一さん（利尻電業㈱）、カマキリ類の識別や同定についてご教示いただいた荻部治紀さん（神奈川県立生命の星・地球博物館）、北海道内の記録や資料のご提供をいただいた柏崎昭さん（札幌市）に心から感謝申し上げます。

2021年7月15日、筆者は利尻電業㈱に勤める柴田栄一さんから、同社の資材を保管している倉庫にカマキリらしい昆虫がいるとの連絡を受けた。倉庫に向かい確認したところ、倉庫内に保管された資材の合板などに、体長およそ8mm前後の多数のカマキリの幼虫が確認された。柴田さんとともにでき

る限りの個体を探し、およそ20個体を採集した。採集したうちの10個体を利尻町立博物館にて同日ただちに標本とし、残りの個体についてはゲージに移し、飼育を開始した。柴田さんの話では、資材の隙間に隠れていた幼虫が、その後も同所にて見つかることはあったものの、時間の経過とともに姿を見ることがなくなったという。

発見及び飼育を開始した時点の幼虫は、全体が薄茶色を呈し（図c）、前脚腿節の内側には3～4個程度の黒い小斑が目立った。その後、成長に従い体色全体は緑色となった。また、これらの幼虫は、腹部末端を高く持ち上げる姿勢がたびたび見られた。当初は共食いなどもあり、7月下旬頃には生存している幼虫は2個体のみとなった。飼育時初期には、アブラムシ類、ショウジョウバエ科やアシナガバエ科などの小型双翅目を与え、成長とともに徐々にハナバエ科やクロバエ科などの比較的大きい双翅目のほか、ヒメクササキリなどの直翅目を生きたまま飼育容器内に放ち、与えた。また、生き餌が得難い場合

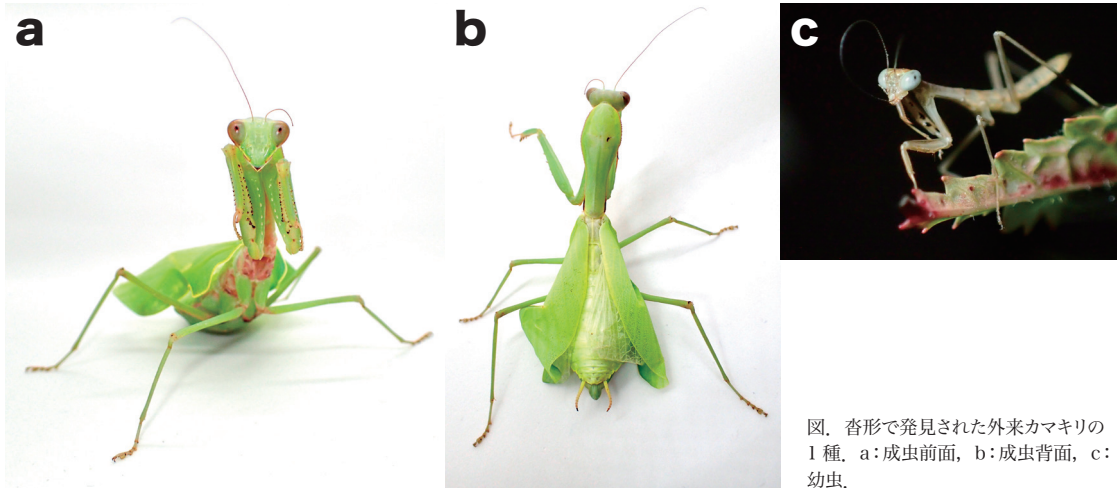


図. 杵形で発見された外来カマキリの1種. a: 成虫前面, b: 成虫背面, c: 幼虫.

は、市販の無糖ヨーグルトを、成虫には、はんぺんを小さくちぎり、口元にピンセットで与えることで飼育を継続した。最終的に成虫になったのは1メスのみであったが、この個体は9月21日に最後の脱皮を行なったところ、脱皮途中でゲージ天井から落下し、翅の伸長などがうまくいかないまま成虫となった。得られた成虫(図a, b)は、以下の特徴を持っていた。

- ・体長は78mm.
- ・背面全体はほぼ緑色.
- ・前翅には黄白色で縦長の小紋が識別でき、後翅は透明で無紋.
- ・胸部の腹面は前胸の先端部を除いて、オレンジ色から赤褐色を呈する.
- ・前脚の腿節および脛節には斑紋などは見られず、一様に緑色.
- ・前脚腿節の腹面には二重の鋸歯が並び、鋸歯は褐色で先端部は黒色。また、内側の鋸歯には短い鋸歯が付随し、白色でその先端は黒色である.
- ・前脚基節の背面には、短い白色の鋸歯が6~7個、それらの鋸歯の間にさらに微小な白色の鋸歯がみられる部位もあった.
- ・腹部は幅広く、緑色を呈し扁平で、長さ41mm、中央部での最大幅は20mmであった。各腹板は緑色であるが、通常は前節後端によって隠れてい

る前端部分中央には赤黄色を示す小斑または帯状の着色部が見られ、中央部にある2つの節には更にその両脇に黒帯が確認された。

国内に自生するカマキリ類では上記の特徴を合わせ持つ種が見当たらなかったが(平嶋・森本, 2008), 間野・宇野(2014)や苅部・加賀(2019)などで報告がある外来種の一つ、ムネアカハラビロカマキリ *Hierodula* sp. と呼ばれているものと本個体の特徴は一致した。そのため、本記録は利尻島から初めてのカマキリ類の記録であるとともに、外来カマキリ種の国内最北の記録と思われた。成虫は12月20日に死亡し、標本は利尻町立博物館にて、幼虫や脱皮殻とともに保管されている。

柴田さんによると、発見時にこの利尻島の倉庫には、旭川から稚内経由で運ばれた資材があり、これらの資材は旭川で製造されたものとは限らず、旭川以外から更に運ばれてきた可能性もあったという。また、同年に一本の竹箒を新調して倉庫に置いてあったことも記憶されていた。国内へのムネアカハラビロカマキリの移入・分散経路については、市販されている中国製竹箒に付着した卵鞘が発見されており、商品とともに各地に持ち込まれ、それが分散要因のひとつであることが推察されている(櫻井ほか, 2018a, 2018b; 苅部・加賀, 2019)。

本事例における利尻島への侵入経路ははっきりと

しないが、本島にはホームセンターや金物店があり、そこでは竹箒や園芸品なども販売されているほか、外部からの資材搬入も日常的に行われており、様々な経路と手段で本来島内に自生していないカマキリ類が持ち込まれる可能性は決して少なくない。本種が利尻島の野外で定着できるかどうかについては不明であるが、本島生態系への新たな脅威となる可能性も捨てきれず、今後も島内への移入・侵入への警戒をするとともに、島民への周知などを行っていく必要があろう。

参考文献

- 平嶋義宏・森本桂（監修），2008. 新訂原色昆虫大図鑑第 III 巻，（トンボ目・カワゲラ目・バッタ目・カメムシ目・ハエ目・ハチ目他），北隆館，東京，654pp.
- 菟部治紀・加賀玲子，2019. 神奈川県におけるムネアカハラビロカマキリの新産地と分布拡大に関する生態的知見. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学），(48): 75-80.
- 川島逸郎・渡辺恭平，2016. 神奈川県川崎市で確認された外来種ムネアカハラビロカマキリ（カマキリ目，カマキリ科）. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学），(45): 97-99.
- 久万田敏夫，1981. オオカマキリ. 北海道新聞社編，北海道大百科事典・上巻：269. 北海道新聞社，札幌.
- 久万田敏夫，1990. カマキリ論争. 札幌市教育委員会編，札幌昆虫記：298-299. 北海道新聞社，札幌.
- 前田俊信，2000. 乙部町でのオオカマキリの記録. *jezoensis*, (27): 61.
- 間野隆裕・宇野総一，2014. 豊田市におけるハラビロカマキリとムネアカハラビロカマキリの分布動態と形態について. 矢作川研究，(18): 41-48.
- 小川浩太，2013. コカマキリの札幌市初採集記録. *jezoensis*, (39): 26.
- 坂田潤一，2013. せたな町北檜山区兜野でオオカマキリの観察. *jezoensis*, (39): 108.
- 櫻井博・菟部治紀・加賀玲子，2018a. ムネアカハラビロカマキリの非意図的導入事例 —中国から輸入された竹箒に付着した卵鞘—. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学），(47): 67-71.
- 櫻井博・菟部治紀・加賀玲子，2018b. ムネアカハラビロカマキリの侵入要因と拡散防止のための方策. 昆虫と自然，53(11): 15-18.